



カウンセリングだより

保育観察エッセイ②

はったつがみえるよ!

～ぶんがのこともたす～

キンダーカウンセラー
宮本 祐子

♪幸いにも、私はキンダーカウンセラーとして、子ども達の中に入って一緒に遊ぶことができます。毎月1回の訪問で、触れ合う時間は限られていますが、頻度が少ない分、子ども達の成長を感じられることが多く、毎回生き生きとたくましく変わっていく姿を楽しみにしています♪

次回の相談日は
12/3(火)です。
3学期は1/21(火)、2/18(火)
3/11(火)の3回です。

私が訪れた秋のある日、年少さんのクラスでは折り紙でコップの作り方を教えてもらっていました。子どもたちみんな、先生の説明を静かに落ち着いて聞いている姿がありました。皆、折り終わるとそれぞれ自分のコップを持って園庭へ出て、金木犀の小花や紅葉した葉っぱを入れたりして遊びはじめました。私に「これ、あげる」と赤く色づいた葉っぱをくれました。

年中さんのクラスでは英語のレッスンが始まっていました。英語講師のチェイス先生がクラスの扉を開けると、一言に元気よく大きな声で挨拶して迎え入れていました。先生の笛の合図で、2人一組になって手をつないだり背中をこすったりして遊び、透明な時には見えないジャンピングロープを先生がまわすと、今度は4人一組で「Jump, jump」と息を合わせて跳び、その後「I'm tired. It's your turn」と次のグループと交代していました。日ごろはおとなしいタイプの子たちも満面の笑みを浮かべて、私の方に「面白いね」という視線を送ってきました。体の動きと一緒に、楽しく英語のフレーズも自然に身につけているようでした。

年長さんのクラスでは作品展に向け、卵ケースなどを使ってシンデレラ城を先生と子どもたちが作っていました。途中、卵ケースが足りなくなっていました。先生は「皆にどうしたらいいかな?」と質問しました。みんな、「はい、はい」と手を挙げて発言し始めました。「はい」と発言したものの、何とて忘れたしまった子もいました。「椅子を使ったらいいと思う」という子の発言に先生は「作品展まで椅子を使えなくなってしまうけどいいかな」と発言を否定することなく問い返していました。ある子は教室の棚に置いてある段ボールを指さして「あのダンボールを使ったら?」と言いました。「あれは違うことに使っているからできないわね」と先生は丁寧に答えていました。みんなそれぞれ一生懸命考えているようでした。また他の子が別な考えを発言しました。その時、先生は男の子に向かって「〇〇くん、今、〇〇ちゃんは何と言っていた?」と聞きました。名前を呼ばれた子は何も答えることが出来ませんでした。少し間を取り、先生は「自分の意見を聞いてもらえなかったらどう思うかな?」とじっくり問いかけました。その男の子は小さい声で「嫌な気持ち」と答えていました。きっとその子はこれから自分が意見を言うことばかりでなく、友だちの意見を聞くことの大切さを感じ取ってくれたことでしょう。

『うちの子は人の話を聞くことが苦手です』と相談を受けることがあります。人の話が聞けるように、子どもに注意を集中させて話を伝えることも大切ですが、子どもは「自分の話をしっかり聞いてもらえた」という経験を通してこそ、人の話をしっかり聞くようになっていきます。日頃、家事で忙しい時やおしゃべりなどに夢中になっている時など、一生懸命子どもが話しかけていても上の空になってしまうことがあるかもしれません。でも子どもが話しかけてきた時、目を合わせて話を丁寧に聞いてあげると、その子は人の話にじっくり耳を傾けられる子になるでしょう(*^▽^*)

キンダーカウンセラーとして、園を訪問させていただいております宮本祐子と申します。普段は大学の付属機関の心理・教育相談センターで、主に就学前～中学生のお子さんやその保護者の方々の発達、及び諸々の相談をしております。毎月1回、堂池文化幼稚園にて、保護者のみなさまがお子さんどう関わったらいいのかな?など子育ての心配や、ご自分について、またお子さんのお友だち同士の開けりや園での生活の心配などの相談に乗らせていただいております。費用の方は幼稚園で負担して下さいますので、保護者の方々の負担はありません。どんな些細なことでも「ちょっと聞いてみたいな〜」「こんなときどうしたらいいかしら」というときに気軽にお越しください。(新館2階でやっています。相談ご希望の方は、クラス担任までお申込ください)